



TITLE:

東亞天文協會觀測部月報

AUTHOR(S):

---

CITATION:

東亞天文協會觀測部月報. 天界 1940, 20(229): 215-222

ISSUE DATE:

1940-04-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167993>

RIGHT:

# 観測部月報

★

東亞天文協會

## ★ 流星課だより (103)

課長 小 槇 孝 二 郎

六月は概して流星が少い。昨年は母彗星の近日點通過に際會したにも拘らず  
キンネケ流星群は殆んど見られなかつたのであるから、本年も好い出現は期待  
し得ないだらう。六月上旬を中にして其の前後に出現する蝸座流星群（輻射點  
は $\alpha=252^\circ$ ,  $\delta=-21^\circ$ ）は注意する必要がある。殊に本年は極大期が月明に妨害  
されないから。

× × × × ×

昨年度の観測も大體出揃つたので、その集計を下にかゝげる。

月	観測者數	回 數	観測時間數(分)	流星數
一 月	1	3	175	21
二 月	1	2	120	7
三 月	2	4	160+	25
四 月	1	4	430	52
五 月	1	5	305	36
六 月	3	15	285+	50
七 月	3	14	1930+	437
八 月	6	35	4855	1238
九 月	2	4	365	13
十 月	4	12	1660	722
十一月	3	14	1840	354
十二月	6	26	4132	1376
合 計	10	138	16257+	4331

この數は前年(1938年)の成績に比すると、観測者數に於て1名少いが、

観測回数では 2 割 7 分

時間數では 6 割 8 分

流星數に於ては實に 12 割

の増加を示してゐる。しかし、この中の大部分は、竹原の吉井氏の奮闘にまつ  
ものであることは云ふまでもなく、實に敬服の至りである。観測者別の統計を  
掲げると、(符號+は観測時間の記入なきものを有する意)

觀 測 者	觀 測 地	回 數	觀測時間數(分)	流量數
吉 井 耕 一	廣島縣竹原	77	13200	3572
小 槇 孝 二 郎	和歌山縣金屋	26	1430	510
川 人 武 正	香川縣笠田	9	490	84
石 原 昭	長野縣諏訪	4	190+	54
西 尾 利 夫	大 阪 市	3	275	62
坂 部 博 一	京 都 市	3	300	10
谷 口 裕 康	神 戸 市	3	222	8
堀 田 泰 生	横 濱 市	1	60	9
森 安 千 秋	香川縣觀音寺	1	90	1
赤 澤 某	長野縣常盤	11	...	22

以上の外、火球及流星寫眞の報告を各々三名の方より報告された。(1940-3-28)

## ★ 黄 道 光 課

課長 山 本 一 清

瀬戸の本田實氏より去る三月2日及び27日の西天の觀測報告を受理した。何れも、頂點は銀河のため、觀測されてゐない。

次いで、静岡縣の醍醐正氏より去る三月2, 4, 10, 28日の西天の觀測報告を受理した。又、山田達雄氏より三月28日の西天の觀測を受理した。

## ★ 太 陽 課 (1940年3月)

報告者 14名。

今月、當太陽課にとつて何よりの喜びは、木邊氏が15日に無事退院されたことである。木邊氏よりは退院の翌日より報告を頂いてゐる。

觀測報告を通覽して、觀測日數の少ない人の多いのは残念である、今後各觀測者共奮勵されて、20日以上を觀測を遂行されるやう御願する。

今月は、21日の東端に出現し、26日夜頃中央子午線を通過し、越へて3月1日夜西没するまで、北14°附近にて千變萬化の變化を示した大群以外は、特筆すべき黒點群は無かつたやうである。激戸では今月新群27群を認め、内、北半球11群、南半球16群であつた。總じて南半球に多數の群を認め、且つ、それも赤道より南10'の間に多かつた。高緯度群は北半球に出現したが、それも25を越す群は無かつたやうである。

例月通り、杳掛、阿部、正村諸氏より緯度報告をいただき、又、津留氏よりは南北及び東西別の相對數の御報告を受けた。(本田)

毎月末の觀測報告が遅れる人が多い。各員の御奮發を乞ふ。尚ほ、太陽黒點の變動は、御承知の通り、非常に急激なものであるから、特に御注意の上、重要な點は月末を待たず、即刻編輯局へ御知らせ願ひたい。(山本)

## 黑點相對數報告 (1940年2月)

觀測者 (觀測地)	小石久太郎 (東京市神田區)	國分 英德 (東京市立一中)	阿部 正明 (東京市池袋)	堀田 泰生 (橫濱市鶴見區)	沓掛 七二 (長野縣青木村)	大石 辰次 (靜岡縣吉永村)	正村 一忠 (岐阜市泮旗町)	木邊 成磨 (滋賀縣中里村)	南 時生 (大阪市明星商業)	來田 晃 (大阪府大正區)	谷口 裕康 (神戸市葦合區)	岡林 滋樹 (倉敷天文臺)	本田 實 (瀬戶觀測所)	津留 繁雄 (熊本市本莊町)	坂上 務 (福岡市大名町)
口徑 mm	58	100	28	20	102	55	25	75	25	50	40	75	75	130	42
倍率	64	45	45	50	75	64	48	60	54	53	50	60	60	45	64
方法	直	投	投	直投	直投	直	直	直	直	直	直	直	投	投	投
1	雪	雲	雲	雲	雲	雨	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲
2	雪	雲	雲	雲	雲	雨	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲
3	雨	雲	雲	雲	雲	雨	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲
4	雨	雲	雲	雲	雲	雨	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲
5	雨	雲	雲	雲	雲	雨	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲
6	雨	雲	雲	雲	雲	雨	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲
7	雨	雲	雲	雲	雲	雨	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲
8	雲	雲	雲	雲	雲	雨	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲
9	雲	雲	雲	雲	雲	雨	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲
10	雲	雲	雲	雲	雲	雨	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲
11	雨	雲	雲	雲	雲	雨	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲
12	雨	雲	雲	雲	雲	雨	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲
13	雨	雲	雲	雲	雲	雨	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲
14	雨	雲	雲	雲	雲	雨	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲
15	雨	雲	雲	雲	雲	雨	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲
16	旅	雲	雲	雲	雲	雨	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲
17	旅	雲	雲	雲	雲	雨	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲
18	旅	雲	雲	雲	雲	雨	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲
19	旅	雲	雲	雲	雲	雨	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲
20	旅	雲	雲	雲	雲	雨	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲
21	旅	雲	雲	雲	雲	雨	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲
22	旅	雲	雲	雲	雲	雨	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲
23	旅	雲	雲	雲	雲	雨	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲
24	旅	雲	雲	雲	雲	雨	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲
25	旅	雲	雲	雲	雲	雨	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲
26	旅	雲	雲	雲	雲	雨	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲
27	旅	雲	雲	雲	雲	雨	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲
28	旅	雲	雲	雲	雲	雨	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲
29	旅	雲	雲	雲	雲	雨	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲
30	旅	雲	雲	雲	雲	雨	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲
31	旅	雲	雲	雲	雲	雨	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲	雲
觀測日數	5	11	22	16	14	15	15	11	17	17	23	9	21	18	19
一日平均	68	89	70	74	79	75	103	69	78	80	99	94	79	71	79
前月平均	68	66	64	64	72	67	54	60	68	71	71	71	71	71	71

## ★ 變 星 課 (1940年3月分)

本月中に受取つた報告の概略だけを示すと、次の通りである。課長木邊氏が靜養中で、觀測の無いのは淋しい。名古屋の小澤氏は相變らずの精勵、感服の外はない。猶ほ沓掛氏は病氣で缺測の由、回復を祈ります。昨年後半の變光星報告を近日天界紙上に發表する筈。報告洩れの方は、第一部は倉敷天文臺へ、第二部は木邊氏宛至急報告下さい。

氏 名	1940年3月					
	第 一 部		第 二 部		計	
	星數	目測數	星數	目測數	星數	目測數
木 邊 成 麿	1	1			1	1
小 澤 喜 一	1	3	20	299	21	302
岡 林 滋 樹	8	17	5	13		
太 田 彬	3	17			3	17
津 留 滋 雄	6	16			6	16
山 田 達 雄	5	22			5	22

但し、上表のものは、津留氏は2~3月分、太田氏は2月分である。(岡林記)

## ド イ ツ の 英 斷

ドイツ政府は、去る二月29日、運勢判斷、その他、世事の豫言に類する記事の付いた曆を、全部沒收する旨發布した。

其の理由は、國民が、愚かなる迷信に惑はされて、精神の平靜を失ふといふにあり、殊に外國製の星占ひは、陰慘な豫言を含んだものが多く、最近ドイツからニューヨークに來た人の談によると、星占ひは、目下、ドイツで非常な流行をし、一部では、ヒットラー總統がポーランド征服を決意したのは、ベルヒテスガールデン山莊の窓からアルプスの空に輝く星を望んで得た判斷に基づくものだと噂もある位である。(讀賣)

吾が國にも此の種類の迷信を記載し、或は之れ等を流布する人は可なり多いのであるが、有識者は、決して此んなものに迷はされないやうに心掛けねばならぬ。殊に、吾が國は、支那の陰陽五行説から來る迷信が非常に多く、旅行、婚姻、建築、運勢などについて、迷つてゐる人が非常に多い。都市の中にある大きいビルデングが、屋上に、變な宮を祭つたり、鳥居を建てたりしてゐるのは誠に見苦しい。

## ★ 遊 星 面 課

## 木星面第1系が中央子午線を通過する時刻

(但し、世界時、即ちグリニチ時刻で示す)

1940年	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
日	24時	24時	22時	20時	18時	16時	16時
1	83.3	136.4	276.2	58.5	44.9	190.8	250.7
2	241.1	294.2	74.1	216.4	203.0	348.9	48.6
3	38.8	92.0	232.0	14.4	1.0	146.9	206.6
4	196.6	249.8	29.8	172.3	159.0	304.9	4.5
5	354.3	47.7	187.7	330.3	317.1	103.0	162.4
6	152.1	205.5	345.6	128.3	115.1	261.0	320.3
7	309.8	3.3	143.5	286.2	273.1	59.0	118.3
8	107.6	161.1	301.4	84.2	71.1	217.0	276.2
9	265.3	318.9	99.3	242.2	229.2	15.0	74.1
10	63.1	116.7	257.2	40.1	27.2	173.1	232.0
11	220.8	274.6	55.1	198.1	185.2	331.1	29.9
12	18.6	72.4	213.0	356.1	343.3	129.1	187.8
13	176.4	230.2	10.9	154.1	141.3	287.1	345.7
14	334.1	28.1	168.8	312.1	299.3	85.1	143.6
15	131.9	185.9	326.7	110.1	97.4	243.1	301.5
16	289.6	343.7	124.6	268.1	255.4	41.1	99.4
17	87.4	141.6	282.5	66.0	53.5	199.1	257.2
18	245.2	299.4	80.4	224.0	211.5	357.1	55.1
19	43.0	97.2	238.4	22.0	9.5	155.1	213.0
20	200.7	255.1	36.3	180.0	167.6	313.1	10.8
21	358.5	52.9	194.2	338.0	325.6	111.1	168.7
22	156.3	210.8	352.1	136.0	123.7	269.0	326.5
23	314.1	8.6	150.1	294.0	281.7	67.0	124.4
24	111.9	166.5	308.0	92.0	79.7	225.0	282.2
25	269.6	324.3	105.9	250.1	237.8	23.0	80.1
26	67.4	122.2	263.9	48.1	35.8	180.9	237.9
27	225.2	280.1	61.8	206.1	193.9	338.9	35.7
28	23.0	77.9	219.8	4.1	351.9	136.9	193.6
29	180.8	235.8	17.7	162.1	149.9	294.8	351.4
30	338.6	33.6	175.6	320.1	308.0	92.7	149.2
31		191.5	333.6		106.0		307.0

## 木星面第2系が中央子午線を通過する時刻

(但し、世界時、即ちグリニチ時刻で示す)

1940年	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
日	24時	24時	22時	20時	18時	16時	16時
1	147.7	331.9	235.8	142.0	260.3	170.3	1.3
2	297.8	122.1	26.1	292.3	50.7	320.7	151.6
3	87.9	272.2	176.3	82.7	201.1	111.1	301.9
4	238.0	62.4	326.6	233.0	351.5	261.5	92.2
5	28.2	212.6	116.8	23.3	141.9	51.9	242.5
6	178.3	2.8	267.1	173.7	292.3	202.3	32.7
7	328.4	153.0	57.3	324.0	82.7	352.7	183.0
8	118.5	303.2	207.6	114.3	233.1	143.1	333.3
9	268.6	93.3	357.9	264.7	23.5	293.5	123.6
10	58.8	243.5	148.1	55.0	173.9	83.9	273.9
11	208.9	33.7	298.4	205.4	324.3	234.3	64.1
12	359.0	183.9	88.7	355.7	114.7	24.7	214.4
13	149.2	334.1	238.9	146.1	265.1	175.1	4.7
14	299.3	124.3	29.2	296.4	55.5	325.4	154.9
15	89.4	274.5	179.5	86.8	205.9	115.8	305.2
16	239.6	64.7	329.8	237.1	356.3	266.2	95.4
17	29.7	214.9	120.1	27.5	146.7	56.5	245.7
18	179.8	5.1	270.3	177.9	297.1	206.9	35.9
19	330.0	155.4	60.6	328.2	87.5	357.3	186.1
20	120.2	305.6	210.9	118.6	237.9	147.6	336.4
21	270.3	95.8	1.2	269.0	28.4	297.9	126.6
22	60.4	246.0	151.5	59.4	178.8	88.3	276.8
23	210.6	36.2	301.8	209.7	329.2	238.6	67.1
24	0.8	186.4	92.1	0.1	119.6	29.0	217.3
25	150.9	336.7	242.4	150.5	270.0	179.3	7.5
26	301.0	126.9	32.7	300.9	60.4	329.7	157.7
27	91.2	277.1	183.0	91.3	210.8	120.0	307.9
28	241.4	67.4	333.3	241.6	1.2	270.3	98.1
29	31.6	217.6	123.7	32.0	151.6	60.6	248.3
30	181.7	7.8	274.0	182.4	302.0	210.9	38.5
31		158.1	64.3		92.4		188.7

## 『昭和16年』— 學曆1941年

神武天皇即位紀元2601年……辛巳，平年 日數總計365日

明治74年	現行される種々の曆年の始まりの日	大正30年
滿洲國康德8年＝中華民國30年＝蒙疆成吉思汗736年＝1月1日，ユリウス曆1941年＝1月14日，泰曆2484年＝4月1日，猶太曆5702年＝9月21日，回々曆1360年＝1月29日		

## 凡 例

1月1日は水曜，己酉，ユリウス通日2429996日。年初の平均黄道傾斜角 $23^{\circ}26'49''.06$ 

祝 祭 記 念 日			
四元宮中 正紀地 陸軍上	方始新年 祭會 初節 元久 紀念 皇已	1月 1日 1月 3日 1月 5日 1月27日 2月11日 3月 6日 3月10日 3月21日 3月30日	神武天皇祭 イースター 天長節 海軍紀念日 端午節 時の紀念日 七夕祭 于良盆會 秋季皇靈祭
			4月 3日 4月13日 4月29日 5月27日 5月30日 6月10日 8月29日 9月 6日 9月23日
			仲秋の名月祭 神嘗節 重陽節 明治節 休戦紀念日 新嘗祭 大正天皇祭 クリスマス ニウトン祭
			10月 5日 10月17日 10月28日 11月 3日 11月11日 11月23日 12月25日

## 季 節

太陽の 黄 經	24節	日	時	12宮	太陽の 黄 經	24節	日	時	12宮
285°	小寒	1月 6日	1時57分	磨羯宮	105°	小暑	7月 7日	22時07分	巨蟹宮
300	大寒	1 20,	19: 28		120	大暑	7 23,	15: 29	獅子宮
315	立春	2 4,	13: 45	寶瓶宮	135	立秋	8 8,	7: 50	
330	雨水	2 19,	9: 48		150	處暑	8 23,	22: 23	處女宮
345	春分	3 6,	8: 06	雙魚宮	165	白露	9 8,	10: 05	
0	清明	3 21,	9: 17		180	秋分	9 23,	19: 38	天秤宮
15	穀雨	4 5,	13: 22	白羊宮	195	寒露	10 9,	1: 45	
30	立夏	4 20,	20: 49		210	霜降	10 24,	4: 34	天蠍宮
45	小滿	5 6,	7: 08	金牛宮	225	立冬	11 8,	4: 32	
60	芒種	5 21,	20: 22		240	小雪	11 23,	1: 47	人馬宮
75	夏至	6 6,	11: 39	雙子宮	255	大雪	12 7,	21: 05	
90		6 22,	4: 35	巨蟹宮	270	冬至	12 22,	14: 54	磨羯宮
土用：(冬) 1月17日， (春) 4月20日， (夏) 7月21日， (秋) 10月17日。									
彼岸：(春) 3月18日， (秋) 9月20日。					社日：(春) 3月24日， (秋) 9月27日。				
雜節：〔節分〕 2月3日，〔八十八夜〕 5月2日，〔入梅〕 6月11日，〔二百十日〕 9月1日。									

## 日 曜

1 月	5, 12, 19, 26,	7 月	6, 13, 20, 27,
2 月	2, 9, 16, 23,	8 月	3, 10, 17, 24, 31,
3 月	2, 9, 16, 23, 30,	9 月	7, 14, 21, 28,
4 月	6, 13, 20, 27,	10 月	5, 12, 19, 26,
5 月	4, 11, 18, 25,	11 月	2, 9, 16, 23, 30,
6 月	1, 8, 15, 22, 29,	12 月	7, 14, 21, 28,



# 月の諸相

	新月	上弦	満月	下弦
1月	27日20時 3分(舊正月朔)	5日22時40分	13日20時 4分	20日19時 1分
2月	25日12時 2分(舊2月朔)	4日20時42分	12日 9時26分	19日 3時 7分
3月	28日 5時14分(舊3月朔)	6日16時43分	13日20時47分	20日11時51分
4月	26日22時23分(舊4月朔)	5日 9時12分	12日 6時15分	18日22時 3分
5月	26日14時18分(舊5月朔)	4日21時49分	11日14時15分	18日10時17分
6月	25日 4時22分(舊6月朔)	3日 6時56分	9日21時34分	17日 0時45分
7月	24日16時39分(舊閏6月朔)	{ 2日13時24分 31日18時19分	9日 5時17分	16日17時 7分
8月	23日 3時34分(舊7月朔)	29日23時 4分	7日14時38分	15日10時40分
9月	21日13時38分(舊8月朔)	28日 5時 9分	6日 2時36分	14日 4時31分
10月	20日23時20分(舊9月朔)	27日14時 4分	5日17時32分	13日21時52分
11月	19日 9時 4分(舊10月朔)	26日 2時52分	4日11時 0分	12日13時53分
12月	18日19時18分(舊11月朔)	25日19時43分	4日 5時51分	12日 3時48分

## 内遊星

	内合	外合	東方極大離角	西方極大離角	極大光輝
水星	2月26日	1月11日	2月11日(18°)	3月26日(28°)	
	7月 3日	5月 6日	6月 6日(24°)	7月24日(20°)	
	10月27日	8月19日	10月 3日(26°)	11月12日(19°)	
金星	—	4月19日	11月23日(47°)	—	12月29日

## 外遊星

	對衝	會合	東留	西留
火星	10月 10日	—	9月 7日	11月 12日
木星	12月 9日	5月 20日	10月 10日	—
土星	11月 18日	5月 9日	9月 11日	1月 10日
天王星	11月 21日	5月 17日	9月 6日	1月 30日
海王星	3月 17日	9月 21日	—	6月 6日
冥王星	1月 21日	7月 24日	11月 10日	4月 9日

## 日 月 食

- 日食 3月28日〔金環食〕——南太平洋上と南米ペルー國とで見えるのみ。  
 9月21日〔皆既食〕——中支と臺灣と琉球南部とで見える、重要な日食である。  
 月食 3月 3日〔部分食〕——日没直後、日本で東天に見える、食分は0.33  
 9月 6日〔部分食〕——夜半過ぎの西天に見える、食分は0.06

## 1941年中の天界珍象

- 歸來する彗星——第一及び第二シワスマン・ワハマン、エンケ、第二テムベルの諸星  
 太陽黒點——極大期は過ぎたが、尚ほ極光、地磁氣、電波、其他の異變に注意!  
 木星と土星との接近——2月21日に最後の接近をする、相互1°21'  
 火星の近接——10月3日、地球へ6130萬キロに近づく、視直徑21"8